

## 令和7年度第2回経営協議会議事要録

日 時 令和7年10月15日（水）13時30分～15時05分  
場 所 宇都宮大学本部棟第一会議室  
出 席 者 池田、飯塚、飯村、入江、大川、北村、松下、  
吉澤、横田、松金、鈴木、米田の各委員  
陪 席 富田監事、溝口監事、佐藤副学長、  
長谷川データサイエンス経営学部長、横尾地域デザイン科学部長、中村国際学部長、  
松村共同教育学部長、杉原工学部長、山根農学部長、湯上地域創生科学研究所科長

議事に先立ち、令和7年度第1回経営協議会議事要録（案）を確認し、承認した。

### [審議事項]

#### 1. 国立大学法人ガバナンス・コード報告書について

学長から、資料1に基づき、国立大学法人ガバナンス・コード報告書について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

### [報告事項]

#### 1. 令和6年度監事監査における意見、指摘事項等への取組状況について

学長から、資料2に基づき、令和6年度監事監査における意見、指摘事項等への取組状況について報告があった。

#### 2. 令和8年度概算要求について

学長から、資料3に基づき、令和8年度概算要求について報告があった。

#### 3. 改革の方針及び危機的な財政状況への対応について

学長から、資料4に基づき、国立大学法人等の機能強化に向けた検討会が策定した「改革の方針」、及び宇都宮大学の危機的な財政状況について報告があった。

### （主な意見）

○学納金の増額について、他大学の状況も踏まえると、社会的に当たり前という感覚になってきているように感じる。経済界でも値上げによる影響を懸念することははあるが、現在ではそうした適応や理解力は相当高まってきていると思われる。

○資金運用について、外部の専門家を交えながら運用計画を策定し、金融リテラシーの向上に努めるべき。

○大学との連携・統合について、宇都宮大学の持ち味を最大限生かしつつ、想定外のことが発生しないよう、先んじてスキームや地元配慮などの進め方を検討しておくべき。

○民間企業においても、賃上げの対応を求められるものの、当然原資をどうするかという問題に直面することとなる。こうした状況から大学の体質強化を図り、連携などを通じて強い大学を目指してほしい。

○民間企業においては、赤字の場合、顧客にダメージを与えぬよう社長、取締役など、まずは自分たちで受け止めて対応をする。大学においても顧客である学生にダメージを与

えぬよう努力は必要と考える。

○寄附への取り組みに力を入れている私立大学も見受けられる。宇都宮大学出身者が社長である利回りの高い企業も見受けられるため、そうしたアプローチも必要と考える。

#### 4. 農学部及び地域創生科学研究科の改組について

学長から、資料5に基づき、農学部及び地域創生科学研究科の改組について報告があった。

引き続き、山根農学部長、湯上地域創生科学研究科長及び長谷川データサイエンス経営学部長から、各改組の具体的な内容、特色等について説明があった。

#### 5. 経営協議会委員への情報発信について

学長から、口頭にて、経営協議会委員への情報発信の方法等について報告があった。

(主な意見)

○先ほどの危機的財政に関しても、OBの方の愛着を育てていくことも重要である。同窓会を活用した情報発信についても検討を進めてほしい。

以上